

優秀若手構造研究者表彰（コンクリート系）選考結果及び選評（平成 27 年度）

一般社団法人 建築研究振興協会

優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）

委員長 岡 田 恒 男

1. 応募状況

標記については平成 27 年 12 月 4 日から 28 年 2 月 15 日の期間において募集したところ、5 名の応募があり、いずれも応募条件を満たすものであった。

2. 選考経過及び選考結果

受賞者の選考は、一般社団法人建築研究振興協会に設置された優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）、（以下、選考委員会と略記）において次のように行った。

まず、選考委員会の開催に先立ち、各委員が応募者の申請書類、掲載論文一式を検討し、あらかじめ決めていた選考に係わる内規に従って論文の内容等に関する評価項目についての事前評価を行った。

次いで、3 月 15 日に選考委員会を開催したが、公平、公正な審査を行うため、応募者の指導教員である委員 2 名は選考に加わらないこととし、残りの出席委員 3 名で、各評価項目についての考え方、視点等について全員が共通認識を得るように意見交換を行った。その上で各委員において事前評価点を見直し、必要に応じて修正し、これに欠席委員 1 名から事前に提出されていた評価点も加え応募者ごとに合計点を算出したが、いずれも僅差であった。

この結果をもとに再度審議を行ったが、今回の 5 名の応募者については、3. 選評に示す通りいずれも優れた業績をあげており、研究者としての将来性も豊かであると考えられたので、以下の通り全員を表彰に値する者と判断し選考した。

受賞者一覧（五十音順）在学年次は応募当時

氏 名	大学・大学院名	年 次	業 績
うの かなみ 宇野芳奈美	名古屋工業大学大学院工学研究科 社会工学専攻 博士前期課程	2 年	カットオフ筋を有する RC 梁の付着性状とせん断力
おおで だいすけ 大出大輔	明治大学大学院理工学研究科建築 学専攻 博士前期課程	修了	建築物の応答評価に基づいた日米耐震規準の比較検討とその合理化
すぎた ひろゆき 杉田裕行	明治大学大学院理工学研究科建築 学専攻 博士前期課程	修了	杭の浮き・沈みが上部構造の外力分布に与える影響に関する研究
ひらばやし みちひろ 平林道大	名古屋大学大学院環境学研究科都 市環境学専攻建築学系博士前期課 程	2 年	鉄筋コンクリート造袖壁・腰壁・垂壁付き部材の破壊形式に関する研究
わが かずまさ 和賀一晟	秋田県立大学大学院システム科学 技術研究科建築環境システム学専 攻 博士前期課程	2 年	地震による塑性化を経験した RC 造建築物の地震応答に関する研究

3. 選評

宇野芳奈美君

鉄筋コンクリート造梁の主筋の一部をカットオフした場合、これが梁の耐力などに及ぼす影響に

については未だ不明の点がある。宇野君は、大学院の修士課程において、カットオフ筋を有する鉄筋コンクリート梁試験体 12 体の静的加力実験を担当し、カットオフ筋が耐力に及ぼす影響を検討している。この際、最大耐力のみならず破壊状況や鉄筋の歪み分布を丹念に調べ分析して、カットオフ長さを設計に反映させる各種手法を調べ、それらの妥当性を比較検証しており、実務に有益な成果が得られている。

大出大輔君

地震時の応答評価は耐震設計の根幹である。大出君は主として鉄筋コンクリート造建物の復元力特性が応答に及ぼす影響を定量的に明らかにするとともにその応答評価法に基づいて日米の耐震基準の比較とその差異の要因を明らかにしている。またそれぞれの基準を合理的な基準とするための修正法も提示しており、その業績には学術的および実務的にきわめて意義深いものがある。

杉田裕行君

近年、下部構造との連成の効果が上部構造の耐震性能の検証に積極的に取り入れられるようになってつつある。杉田君は連成効果が特に顕著に現れる鉄筋コンクリート造板状建物の張り間方向を対象とし、上部構造及び杭・地盤の一体解析により、杭頭が降伏する場合の外力分布や地盤変形を考慮した SR モデルの合理的な修正法の提案など耐震設計に係わる学術的・実務的に極めて意義深い成果を挙げている。

平林道大君

昨今の社会的要求として、極稀に発生する地震に対しても継続使用性を確保することが求められる場合が多くなってきている。平林君は、現行の耐震規準で示されている以上の性能を確保するために、袖壁・腰壁・垂壁などを構造要素として利用する設計方法の提案をめざし、袖壁・腰壁・垂壁付き部材で生じうる破壊形式を明らかとし、それらの判別手法を提案した。判別方法はコンクリートの圧縮破壊に注目した比較的簡便で合理的な方法であり、建築構造設計上有益である。

和賀一晟君

地震後の余震や継続時間の長い地震動に対する耐震性能を推定することは、震災後に機能維持を必要とする施設ばかりではなく、一般の建築物にあっても重要である。和賀君は、一旦塑性化した鉄筋コンクリート造建物を対象に実験的に残存性能を明らかにするとともに、その実験時の挙動を再現できるような復元力モデルを提案している。加えて、損傷程度による応答推定法も提案し、学術的にも社会的にも有益な成果を得ている。

優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）

委員長	岡田 恒男	東京大学	名誉教授	
副委員長	平石 久廣	明治大学	教授	*
委員	勅使川原正臣	名古屋大学	大学院教授	*
	塩原 等	東京大学	大学院教授	
	倉本 洋	大阪大学	大学院教授	
	五十田 博	京都大学	教授	

(*応募者の指導教員のため、選考から外れた)